

相模国の終末期古墳を考える

-子易・中川原遺跡1号墳を中心に-

公益財団法人かながわ考古学財団 新山 保和

1：はじめに

◎古墳時代の時期区分

2：終末期古墳とは何か

(1)畿内の終末期古墳

(2)地方の終末期古墳

(3)関東の終末期古墳

(4)伊勢原市内の終末期古墳

3：子易・中川原遺跡1号墳について

(1)墳丘内石列について

(2)墳形について

4：さいごに

◎子易・中川原遺跡1号墳の被葬者について

1：はじめに

◎古墳時代の時期区分

- ・ 2 時期編年⇒前期（古式）・後期
- ・ 3 時期編年⇒前期・中期・後期
- ・ 5 時期編年⇒発生期・前期・中期・後期・終末期

◎高松塚古墳の発掘

- ・ 古墳終末期古墳という用語が散見
- ・ 後期古墳と終末期古墳の相違

◎終末期古墳とは？

- ・ 推古天皇の即位（592 年）から平城遷都（710 年）に至る，概ね 7 世紀頃の古墳をさす
⇒ 6 世紀末には全国各地で前方後円墳が終焉を迎える
⇒ 前方後円墳が方墳や円墳、上円下方墳、八角形墳になる

2：終末期古墳とは何か

◎高松塚古墳の発掘以後

- ・ 各地で発掘調査が進展し、従来の後期古墳と異なる古墳の存在が確認
⇒ 7 世紀中葉以後、主に 7 世紀後半から 8 世紀初頭
⇒ 大化の改新（645 年）
- ・ 『日本書紀』孝徳天皇大化二年春三月甲申条
— 大化の薄葬令 —
- ・ 玄室、羨道を具備する横穴式石室＝後期古墳
- ・ 羨道を具備しない横穴式石室＝終末期古墳
⇒ 横口式石槨（石棺式石室）

○高松塚古墳

- ・ 1962(昭和 37)年頃、シヨウガを貯蔵した時に発見
- ・ 1970(昭和 45)年に古墳近くに遊歩道設置のために調査
⇒ 極彩色の壁画発見
- ・ 世紀の大発見（新聞記事）
- ・ 1973(昭和 48)年 特別史跡
- ・ 1974(昭和 49)年 国宝に指定

*鎌倉時代に盗掘

- ・ 棺の金具類（金銅製透飾金具など）、銅釘、大刀金具、海獣葡萄鏡、玉類（ガラス製、琥珀製）
- ・ 壁画は現地保存⇒カビ発生⇒解体・修復

○対象 単独墳と群集墳

- 単独墳：他の古墳から離れて 1 基単独で存在する
- 群集墳：小規模な古墳が密集している

(1) 畿内の終末期古墳

○マルコ山古墳 (奈良県) …直径 24m、高さ 4.5m の 2 段築成の多角形地墳

・横口式石槨

→漆塗木棺の破片や棺を飾る金銅製の六花形文様の金具、玉類出土

・暗渠排水溝

・ 7 世紀末～ 8 世紀初頭

○石のカラト古墳 (奈良県) …一辺 14m の上円下方墳

・下の方形部は、一辺 13.8m・高さ 1.36m、上の円形部は、径 9.2m・高さ 1.55m

→高松塚古墳石室の退化した横口式石槨

・ 7 世紀末から 8 世紀初頭

○^{けんごしづか}牽牛子塚古墳 (奈良県) …対辺長約 22m、高さ 4.5m の八角形墳

・左右二室の横口式石槨

→天井は緩やかなドーム状の曲面

・夾紵棺の破片、七宝飾金具、ガラス製丸玉、人骨

・ 7 世紀後半

○石舞台古墳 (奈良県) …方墳

・ 7 世紀初頭

・ 30 数個の岩の総重量約 2300 トン、天井石は約 77 トン

<文献に散見>

・ 1772 (明和 9) 年、本居宣長の「管笠日記」

→石舞台古墳と都塚古墳と対として意識され、推古・用明天皇の墓の伝承

・ 1829 (文政 12) 年、津川長道「卯花日記」

→蘇我馬子の墓

・ 1848 (嘉永元) 年、暁鐘成「西国三十三所名所図絵」

→天武天皇を仮に葬り奉った場所

○高松塚古墳 (奈良県) …一辺約 23m、高さ 5m の 2 段築成の円墳

・ 6 世紀末～ 7 世紀初頭

・石室の壁画が有名⇒色彩鮮やかな西壁の女子群像

○キトラ古墳 (奈良県) …上段が直径 9.4m、下段が直径 13.8m、高さ 4 m 弱 2 段築成の円墳

・ 7 世紀末～ 8 世紀初め頃

・ 1983 (平成 12) 年石室内の彩色壁画の一つである玄武が発見

⇒石室天井には本格的な天文図、壁には四つの方位を護る四神や十二支

*動物の頭と人間の体で十二支を表現 (獣頭人身像)

○シシヨツカ古墳 (大阪府) …東西約 60m、南北約 53m (周溝を含む) の 3 段築成の方墳

・全長 12m の切石積横穴式石室で、横口式石槨を奥壁とする形状

・ 6 世紀末

○アカハゲ古墳 (大阪府) …東西約 70m、南北 40m、高さ 7m (壇を含む規模) 3 段築成の方墳

・全長 9.66m の横口式石槨

- ・木棺に用いられた角形地鉄釘4本、鉄鋌断片3個、漆塗籠棺片、ガラス製扁平管玉8点と断片7点、黄褐釉有蓋円面硯断片3点
 - ・墳丘は、粘質土と砂質土の互層、段の傾斜角は40°～45°
 - ・墳丘表面は貼石と敷石で全面被覆
 - ・7世紀中頃～後半
- ツカマリ古墳（大阪府）…一辺約28m、高さ4.7mの円墳か方墳
- ・東西79mの盛土上に下段43m・中段35m・上段23の3段重ねの墳丘
 - ・7世紀中頃～後半

（2）地方の終末期古墳

- 山尾古墳（京都府）…9.0×9.9mの2段築成の方墳
- ・それぞれの段・テラスに石列
- 若狭野古墳（兵庫県）…1辺15mの方墳
- ・組み合わせて石棺に羨道をつけた横穴式石室
 - ・外護列石：上段と中段
 - ・7世紀半ば
- 二子14号墳（岡山県）…一辺13mの2段築成の方墳
- ・各段に外護列石を巡らす（石材を4～5段積む）
 - ・7世紀中頃
- ^{こうみょうじ}光明寺4号墳（島根県）…1辺約10mの正方形を呈する方墳
- ・外護列石：墳丘全体
 - ・無袖型横穴式石室（東開口）
 - ・7世紀代

（3）関東の終末期古墳

- ◎龍角寺古墳群（千葉県）
- ・6世紀から前方後円墳や円墳などが築造され、7世紀後半まで継続
 - ・龍角寺岩屋古墳（1辺78mの方墳）…7世紀前半から中頃
- ◎板附古墳群（千葉県）
- ・6世紀後半から前方後円墳や円墳などが築造され、7世紀後半まで継続
- 前方後円墳築造後、方墳の築造開始
- ・駄ノ塚古墳（一辺62mの方墳）…7世紀前半
全長7.7mの複室横穴式石室
- ◎総社古墳群（群馬県）
- ・総社二子山古墳（全長89.9m前方後円墳）から続く古墳群
 - ・総社愛宕山古墳（一辺55m高さ8mの方墳）…7世紀前半

- ・ 宝塔山古墳（54×49m 高さ 12m の方墳）・・・7 世紀末
- ・ 蛇穴山古墳（一辺 39m の方墳）・・・7 世紀末～8 世紀初頭

（4）伊勢原市内の終末期古墳

○三ノ宮 3 号墳・・・推定 20m の円墳

- ・ 1964（昭和 39）年調査：現東名の調査
- ・ 無袖式横穴式石室（全長 6.8m・幅 1.3m・奥壁石室幅の 1 段積み）
- ・ 時期・・・7 世紀前半

○^{とおのやま}登尾山古墳（伊勢原市）・・・円墳

- ・ 両袖式横穴式石室（全長奥幅 1.6m・前幅 1.5m・長さ 2.8m・奥壁は側壁と同サイズの 4 段積み）
- ・ 時期・・・6 世紀末

○^{らちめん}塚免古墳（伊勢原市）・・・直径 40m の円墳

- ・ 片袖式横穴式石室（玄室長 4.8m・幅 2m・高さ最大 2.2m・奥壁は石室幅の 2 段積み）
- ・ 時期・・・6 世紀末

○子易・中川原遺跡 2 号墳・・・直径 20m の円墳

- ・ 無袖式横穴式石室（石室全長 5m・石室幅 1m）
- ・ 前庭部：コの字形で、石積みが葺石に連続 幅 1.5m 前後・長さ 2.3m
- ・ 時期：7 世紀前半

3：子易・中川原遺跡 1 号墳について

○1 号墳

- ・ 墳形：方墳
 方形石積：南北長 12.2m×東西長 14.8m（現状）
- ・ 墳丘内石列（外側）：12.2m×14.2m（現状）
- ・ 墳丘内石列（内側）：10.4m×10.7m（現状）
- ・ 無袖式横穴式石室
 掘り方長 8.3m、幅 6.5m：楕円形
 玄室長 3.7m・幅 0.9m・高さ 1.5m（現状）・奥壁 2 段積み
 羨道長 1.5m 以上・幅 0.7m
- ・ 出土遺物：須恵器、鉄製品、骨
- ・ 時期：7 世紀後半
- ・ 墳丘構築過程

（1）墳丘内石列について

- ・ 墳丘内に石列を持つ古墳
- ^{みいだに}箕谷 3 号墳（兵庫県）・・・13.5m×9.5m の楕円形墳
- ・ 無袖式横穴式石室

- ・外護列石：3段、上段・中段は盛土内に埋没
- ・7世紀前半
- 細谷9号墳（京都府）・・・東西8～10m×南北12×13mの円墳
 - ・外護列石：石室前庭部、羨道部と側壁壁に連結する3重
 - ・6世紀末～7世紀初頭
- 上野2号墳（京都府）・・・直径10m円墳を方墳に改築
 - ・無袖式横穴式石室
 - ・外護列石：石垣状の列石で周囲を囲む（2重）
 - ・7世紀前半
- 道上古墳（岡山県）・・・直径8.5mの円墳
 - ・無袖式横穴式石室
 - ・外護列石：墳丘裾部に2重に巡る（内側は墳丘内）
 - ・7世紀前半
- こうしんのう1号墳（福岡県）・・・直径12mの円墳
 - ・墳丘裾部と墳丘内に石列
 - ・6世紀後半代

☆^{きくらどて}桜土手古墳群 7世紀前半から8世紀初頭まで円墳のみで形成

- 桜土手1号墳（神奈川県秦野市）・・・直径35×38mの円墳
 - ・無袖式横穴式石室
 - ・外護列石：石室周囲（墳丘内）
 - ・7世紀後半
- 桜土手7号墳（神奈川県秦野市）・・・直径28.3mの円墳
 - ・無袖式横穴式石室
 - ・外護列石：石室周囲
 - ・7世紀代

（2）墳形について

- 方墳
- 円墳を改築して方墳
- 上円下方墳

4：さいごに

- ・子易・中川原遺跡1号墳の被葬者について
- 人骨分析
- ・相模国の首長

用語解説

- 横穴式石室…玄室と羨道部で構成され、墳丘の横に出入口がある
- 玄室^{げんしつ}…遺体を納める部分
- 羨道^{せんどう}…石室の入口から玄室に通じる部分
- 墳丘内石列…墳丘の構築過程で積まれた石列。墳丘内に取り込まれる
- 外護列石^{がいごれつせき}：墳丘上・墳丘裾・墳丘内・石室開口部等にある列石
列石には、1段で置き石状に配する形態と2段以上を石垣状に積み上げる形態がある

参考文献

- 上野恵司 2000「終末期の方墳について—関東地方を中心に—」『立正史学』第 87 号 立正大学史学会
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 1998『大化の薄葬令 古墳のおわり』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 16
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2004『古墳から奈良時代墳墓へえ』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 34
- 小野本敦 2008「流通路から見た武蔵の後・終末期古墳」『東京考古』26 東京考古談話会
- 河上邦彦 1992「終末期古墳とその背景」石野博信ほか編『古墳時代の研究』12 古墳の造られた時代 雄山閣
- 河上邦彦 1995『後・終末期古墳の研究』雄山閣
- 北九州市考古博物館 1993『終末期古墳の世界—高松塚とその時代』
- 九州前方後円墳研究会 2009『終末期古墳の再検討』第 12 回 九州前方後円墳研究会長崎大会
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2020『年報 26（平成 30 年度）』
- 小林利晴 1999「墳丘内に石列をもつ古墳—岡山県内を中心に—」『古代吉備』第 21 集 古代吉備研究会
- 白石太一郎 1982「畿内における古墳の終末」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 1 冊
- 白石太一郎編 2005『古代を考える 終末期古墳と古代国家』吉川弘文館
- 下原幸裕 2003「後・終末期方墳の検討—九集・近畿地域—」『古文化談叢』第 49 集 九集古文化研究会
- 田尾誠敏 2007「登尾山古墳・埴免古墳」広瀬和雄・池上悟編『武蔵と相模の古墳』季刊考古学別冊 15 雄山閣
- 田村悟 1999「終末期群集墳の展開」『古文化談叢』第 43 集 九州古文化研究会
- 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館編 1981『飛鳥時代の古墳』
- 日本考古学協会編 1989『シンポジウム終末期古墳の諸問題』学生社
- ニューサイエンス社 1981「特集：終末期古墳」『月刊 考古学ジャーナル』NO. 194
- ニューサイエンス社 2009「特集：上円下方墳」『月刊 考古学ジャーナル』NO. 592
- 埋蔵文化財研究会 1997『第 41 回埋蔵文化財研究会 古墳時代から古代における地域社会』
- 埋蔵文化財研究会 1998『第 43 回埋蔵文化財研究会 前方後円墳の終焉』
- 富士市教育委員会 2011『古墳ガイドブック』
- 安村俊史 2008『群集墳と終末期古墳の研究』清文堂山本彰 2007『終末期古墳と横口式石槨』吉川弘文館
- 雄山閣 1999「特集 終末期古墳の被葬者」『季刊 考古学』第 68 号 雄山閣
- 雄山閣 2003「特集 終末期古墳とその時代」『季刊 考古学』第 82 号 雄山閣
- 横幕大祐 1997「いわゆる外護列石について」『美濃の考古学』第 2 号 美濃の考古学刊行会
- 渡辺邦雄 1995「畿内における終末期群集墳の外部構造—特に列石を中心として—」『古代文化』第 47 巻第 2 号 財団法人古代学協會
- 渡辺邦雄 1999「終末期古墳の外部構造—段築を有する古墳を中心として—（上）」『古代学研究』147 古代学研究会
- 渡辺邦雄 1999「終末期古墳の外部構造—段築を有する古墳を中心として—（下）」『古代学研究』148 古代学研究会
- 渡辺邦雄 2003「終末期古墳の墳形—方墳の導入をめぐる古墳の動向—」『考古学雑誌』第 87 巻第 4 号 日本考古学会



図1 子易・中川原遺跡周辺の分布図

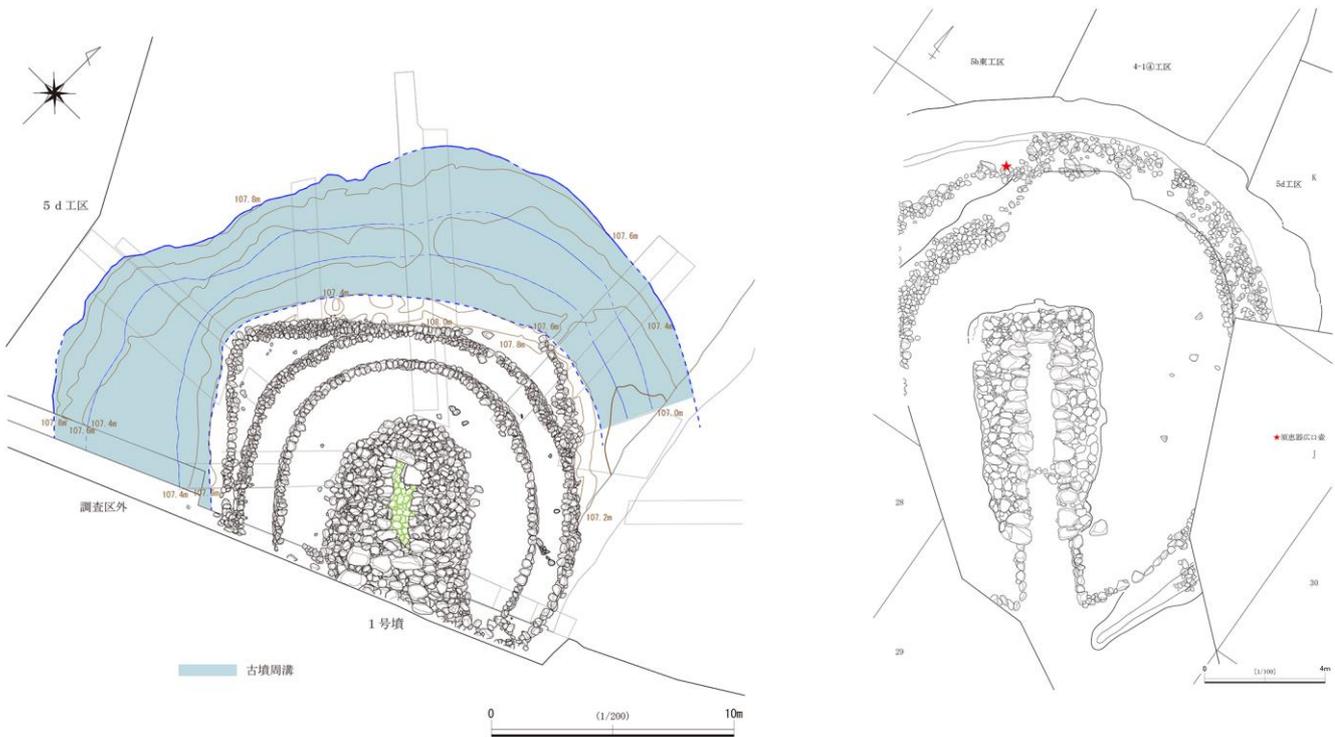
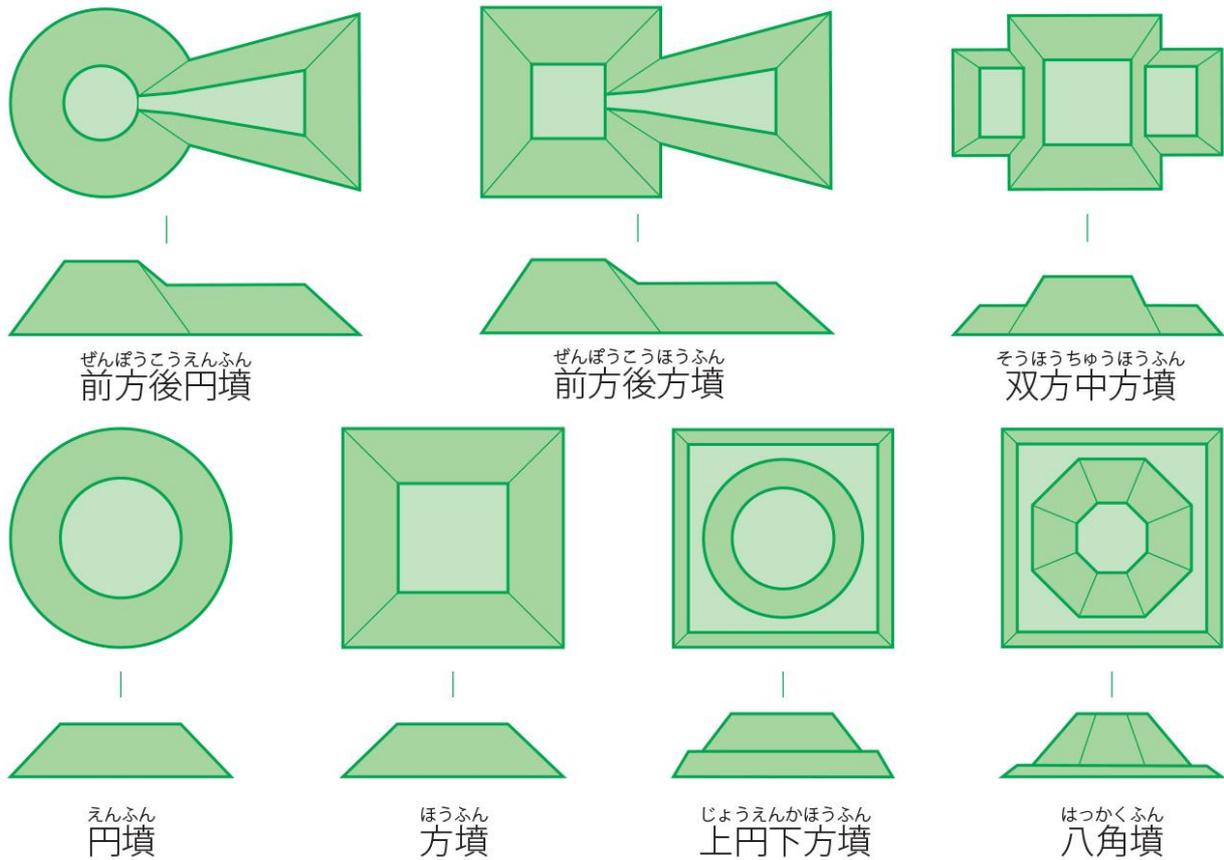


図2 子易・中川原遺跡1号墳(左)・2号墳(右)(公益財団法人かながわ考古学財団 2020)

◆ 古墳見学のための基礎知識



古墳の形と種類

図3 古墳の形状（富士市教育委員会 2011 より転載）

横穴式石室の構造

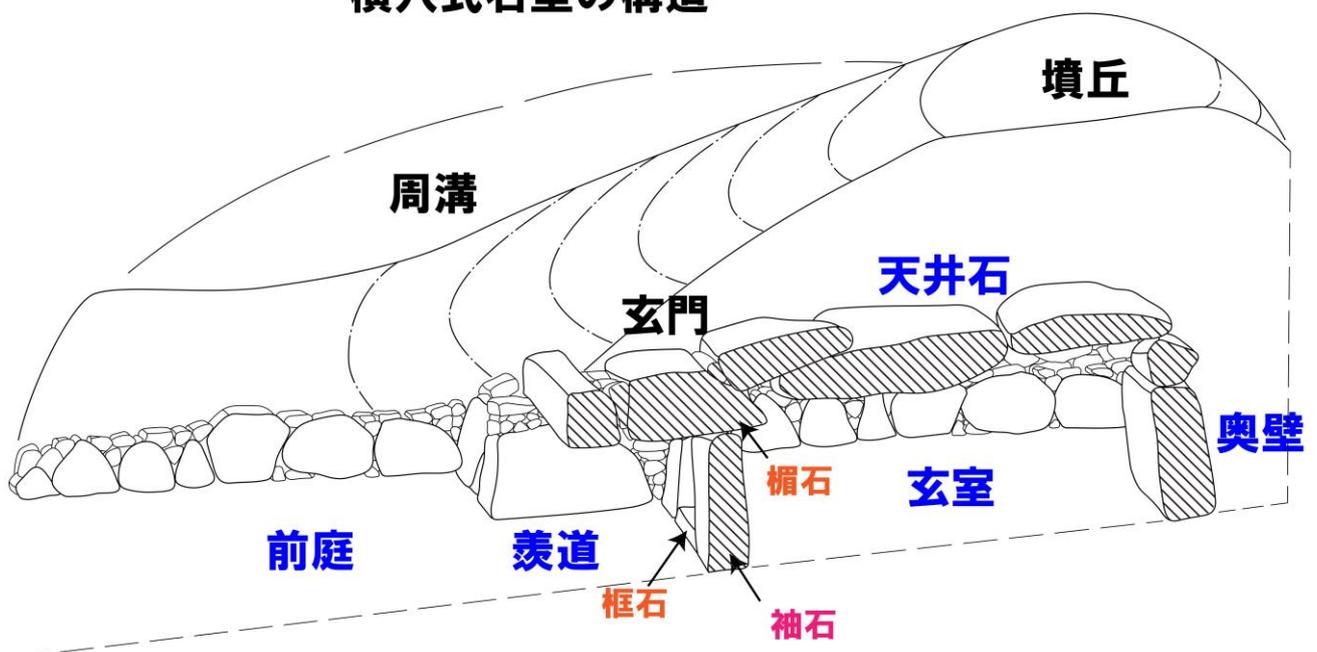


図4 横穴式石室の構造

